

おしま 大島あきら が取り組む 6つの“情熱のまちづくり”

情熱のまちづくり 1

自然災害から命と財産を守る！ 備え万全で被害の最小化を目指します。

近年、大規模地震や豪雨などの自然災害が頻発しており、日々不安を抱えながら生活されている方も多いのではないのでしょうか。災害への備えは、川崎市においても最も切実な課題の一つです。人間の力で自然を押さえ込むことはできませんが、備えを万全にすることによって被害を未然に、あるいは最小限に防ぐことは可能です。将来起こり得る自然災害の最小化を目指し、危機感の共有とその対策に全力で取り組みます。

情熱のまちづくり 2

多発する凶悪犯罪！ 効果的な施策で巨悪を壊滅。

「世界一安全安心な国・日本」と言われて久しいですが、強盗・強奪など凶悪犯罪、特殊詐欺、サイバーテロ、ストーカー・DV、性犯罪、児童虐待・いじめなどが近年多発し、必ずしも「安心して暮らせる国」とは言い切れなくなりました。日々の生活に不安を与えるこうした犯罪から市民の皆さまを守る効果的な施策を地域、行政と連携を密に取りながら積極的に推進し、とくに子どもの安全は身体を張って守ります。

情熱のまちづくり 3

加速化する少子化！ 身近な声に耳を傾け市政に反映。

コロナ禍で少子化が加速するという深刻な事態となっています。国は緊急対策としての結婚・出産支援を積極的に行うとともに、大胆な児童手当や育休給付の拡充、保育等子育て支援、放課後児童クラブの拡充など総合的な少子化対策を行っています。私はこれらの政策を市域に浸透させるとともに、身近な子供や子育て世代の方の意見や要望をくみ取り、それらを市政に反映させることによって誰もが出産・子育てに不安を抱かない、子どもたちののびのびと遊び、学べる生活環境を早期に創出させます。

公約、必ず
達成。



情熱のまちづくり 4

川崎の未来を創る画期的なプロジェクト！ 臨海部に“水素”の供給網を形成。

川崎市は、水素利用の需要・供給双方の拡大という好循環を実現するため、水素利用のネットワークとして中長期的な需要と実現可能な供給網の形成を目指しています。川崎市はすでに臨海部を中心に LNG 発電所や工場、空港といった大規模な需要施設の集積に加え、港湾や既設の水素パイプライン網といった水素の受入・供給拠点形成に必要な機能が存在しており「水素需要・供給双方のポテンシャルが非常に高い地域」といえます。

川崎市の発展に大きく寄与するこのプロジェクトを積極的にサポートし、早期実現に向けて全力で取り組みます。

情熱のまちづくり 5

新制度で迅速かつ柔軟な行財政運営を！ 特別自治市制度を早期に創設。

より一層の市民サービス向上を図るため、自己解決力を高めながら対応する一元的・総合的な行政事務の確立が強く望まれています。

指定都市である川崎市は現在も身近な行政サービスのほとんどを担っていますが、さらに迅速かつ柔軟な行財政運営を可能にするためには道府県の区域外となる「特別自治市制度」の創設が必要不可欠です。

県との二重行政を完全に解消し、無駄をなくした行財政運営を可能とする特別自治市制度の早期実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

情熱のまちづくり 6

川崎市の魅力を世界に広く発信！ 観光客増で地域経済の活性化。

コロナ禍以前、川崎市を訪れる観光客は年間約2,000万人（平成29年度）にも及んでいました。観光資源を整備し、魅力ある川崎市を積極的にPRすればその数を戻し、さらに増やすことも可能です。市域全体に経済波及効果を生み出す観光客増に向けた施策を推し進めます。